

## 第4章 食育推進計画

### 1.食育推進の基本目標と方針

「食育」とは、生きる上での基本であり、知育・徳育及び体育の基礎となるものです。そして様々な体験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を身につけ、生涯にわたって健全な食生活を実践することができる「人」を育てることで。

社会における高齢化の進行の中で、健康寿命\*の延伸が国民的課題であり、生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むためには、妊産婦や、乳幼児から高齢者に至るまで、ライフステージやライフスタイル、多様な暮らしに対応し、切れ目のない、生涯を通じた食育を推進することが重要です。

小松島市でも様々な「食」に関する問題に対して、食育に関わるすべての人が共通の思いを持って食育を推進することで、生涯にわたって健やかな心とからだを育てることのできるまちをめざします。

表 4-1 食育推進の体系

基本目標	基本方針	行動目標
みんなでつくる心とからだに おいしくはん	健康寿命の延伸につながる食育 (生活習慣病の発症予防、重症化予防)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 早寝・早起き・朝ごはんの習慣で、生活リズムを整えよう</li><li>● 栄養のバランスと減塩に心がけ、3食きちんと食べよう</li><li>● 適正体重を知ろう</li></ul>
	多様な暮らしに対応した食育	<ul style="list-style-type: none"><li>● 食に関心を持ち、食を楽しもう</li><li>● 地域の力で、ひとりひとりに応じた食生活を支援しよう</li><li>● 食文化を大切にしよう</li></ul>
	持続可能な食を支える食育	<ul style="list-style-type: none"><li>● 食品ロスを減らす工夫をしよう</li><li>● 地産地消を推進しよう</li><li>● 環境に配慮した農林水産物・食品を選ぼう</li></ul>

### 2.前計画の評価

前計画の評価指標について令和5年度小松島市食育アンケート調査等における結果と比較すると達成状況は表 4-2 のようになります。

表 4-2 前計画の評価

評価項目	ベースライン値	H28年度調査	目標値	最新値	達成状況
食育に関心を持っている者の割合	-	69.8%※1	75.0%	70.7%※5	○
肥満傾向児・者の割合(注1)	3歳児	7.7%※2	減少	9.8%※6	×
	小学5年生 男子	14.6%※3	10.01%	20.7%※7	×
	小学5年生 女子	8.6%※3	7.86%	12.2%※7	×
	中学2年生 男子	7.8%※3	減少	13.3%※7	×
	中学2年生 女子	11.0%※3	7.46%	12.5%※7	×
	高校2年生 男子	15.3%※3	9.43%	16%※7	×
	高校2年生 女子	8.3%※3	7.36%	9%※7	×
痩身傾向児・者の割合(注2)	3歳児	0%※2	維持	1.6%※6	×
	小学5年生 男子	1.3%※3	減少	3%※7	×
	小学5年生 女子	2.5%※3	1.71%	3.5%※7	×
	中学2年生 男子	0.6%※3	減少	5.2%※7	×
	中学2年生 女子	2.5%※3	減少	3.9%※7	×
	高校2年生 男子	1.1%※3	減少	2.4%※7	×
	高校2年生 女子	4.6%※3	1.72%	5.1%※7	×
BMI25以上の者の割合	20~60歳代 男性	30.9%※1	減少	30.8%※5	△
	70歳代以上 男性	26.6%※1	減少	22.0%※5	◎
	20~60歳代 女性	14.7%※1	減少	9.5%※5	◎
	70歳以上 女性	21.5%※1	減少	25.9%※5	×
朝食欠食の割合	小学5年生	4.4%※1	0%	4.4%※5	△
	中学2年生	7.3%※1	0%	6.3%※5	○
	高校1~3年生	18.1%※1	0%	9.6%※5	○
	20歳代 男性	42.3%※1	0%	11.8%※5	○
	30歳代 男性	29.6%※1	0%	26.7%※5	○
	20歳代 女性	17.0%※1	0%	13.3%※5	○
	30歳代 女性	14.3%※1	0%	10.0%※5	○
共食頻度(家族とほとんど毎日食べる者)の割合	朝食	38.2%※3	54.5%	31.4%※5	×
	夕食	66.5%※3	増加	67.3%※5	◎
学校給食における地場産物の活用率	-	品数ベース 45.0%※4	維持	金額ベース 67.4%※8	■

(注1)肥満傾向児とは、性別、年齢別、身長別標準体重から肥満度を算出し、肥満度が20%以上の者  

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重(kg)} - \text{身長別標準体重(kg)}) / \text{身長別標準体重(kg)} \times 100(\%)$$

(注2)痩身傾向児とは、肥満度が△20%以下の者

\* (アスタリスク) がついた用語については、資料編に「用語説明」があります。

評価区分

- ◎ 目標値に達した
- 目標値に達していないが、改善傾向にある
- △ 変わらない
- × 悪化している
- 評価困難

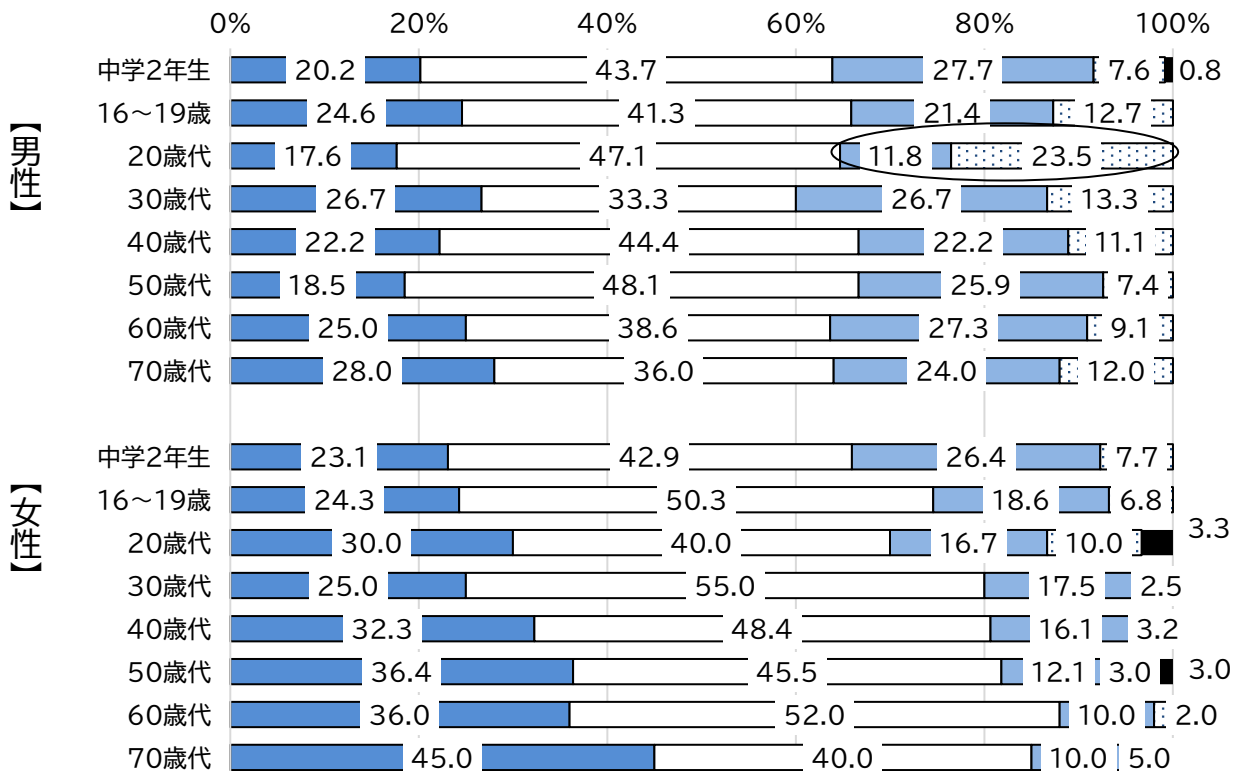
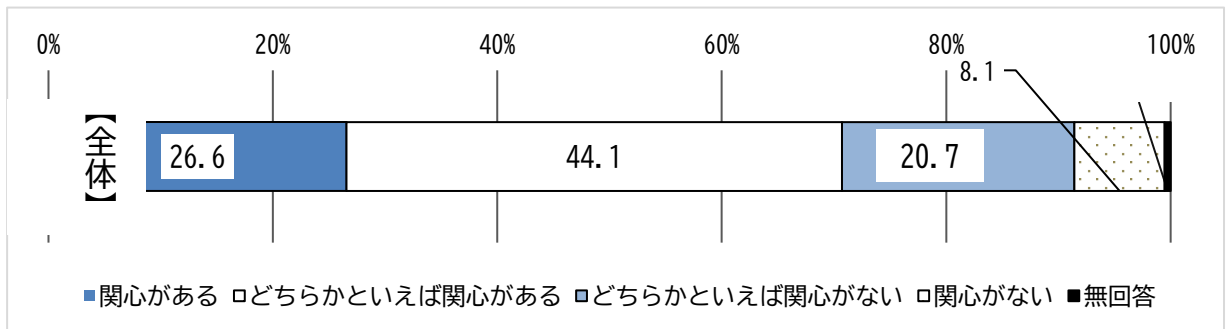
- ※1 平成28年度小松島市食育アンケート調査
- ※2 平成27年度3歳5か月児健診結果より
- ※3 平成28年度学校保健統計調査(小松島市)
- ※4 平成27年度学校給食における地場産物活用状況調査(小松島市1月期)
- ※5 令和5年度小松島市食育アンケート調査より
- ※6 令和4年度3歳5か月児健診結果より
- ※7 令和4年度学校保健統計調査(小松島市)
- ※8 令和4年度学校給食における地場産物活用状況調査(小松島市 令和4年6月と11月の平均値)

### 3.食育アンケート調査結果からみえる現状

#### (1) 食育への関心

健全な食生活の実践のためには、より多くの市民に食育に関心を持ってもらうことが欠かせません。全体の70.7%が食育に関心を示しており、前回の調査(69.8%)に比べると増加していますが、国の調査「食育に関する意識調査令和4年実施」(以下「国の調査」という)の78.9%を下まわっていました。女性に比べ、男性は関心が低い傾向にあり30歳代男性では関心がないが40%、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」の計)となっています。

図 4-1 あなたは食育(食に関する教育)に関心がありますか？



## (2) 家族との共食

家族が食卓を囲んで共に食事を取りながらコミュニケーションを図ることは食育の原点といえます。家族と同居している市民の「朝食をほとんど毎日家族と食べる」割合は31.4%で前回調査(38.2%)より減少していました。また国の調査の48.1%を下まわっている状況でした。「夕食を家族と一緒にほとんど毎日食べる」割合は67.3%で、前回調査(66.5%)より増加していますが、国の調査の68.7%を下まわっています。

図 4-2 あなたが朝食(夕食)を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか？

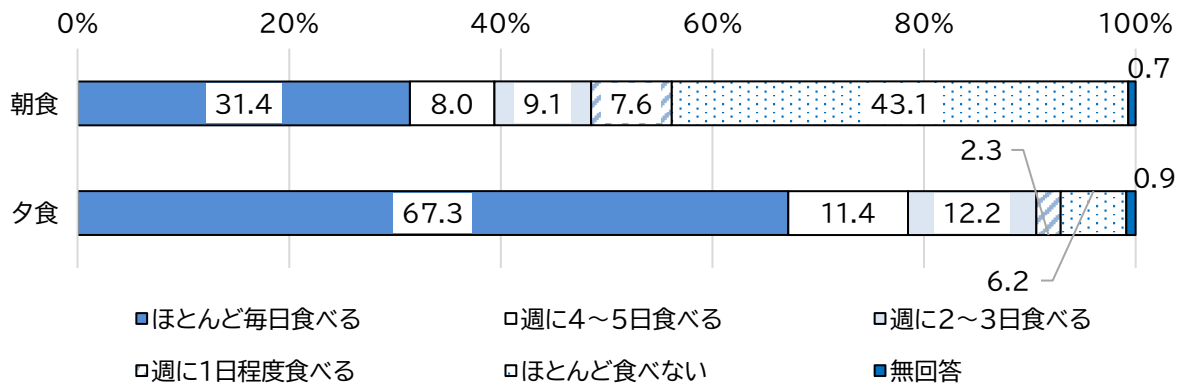
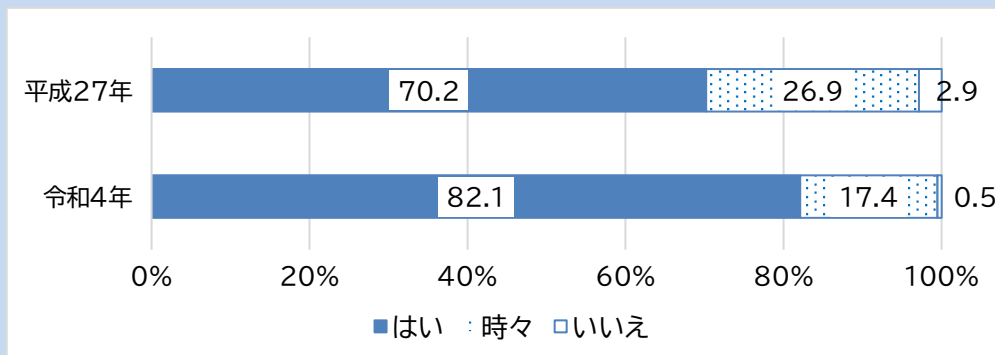


図 4-3 家族そろってご飯を食べますか？



資料:3歳5ヶ月児健診

家族そろって食事をする割合は、前計画の時期と比べ11.9%高くなっていました。

### 「共食と食育」

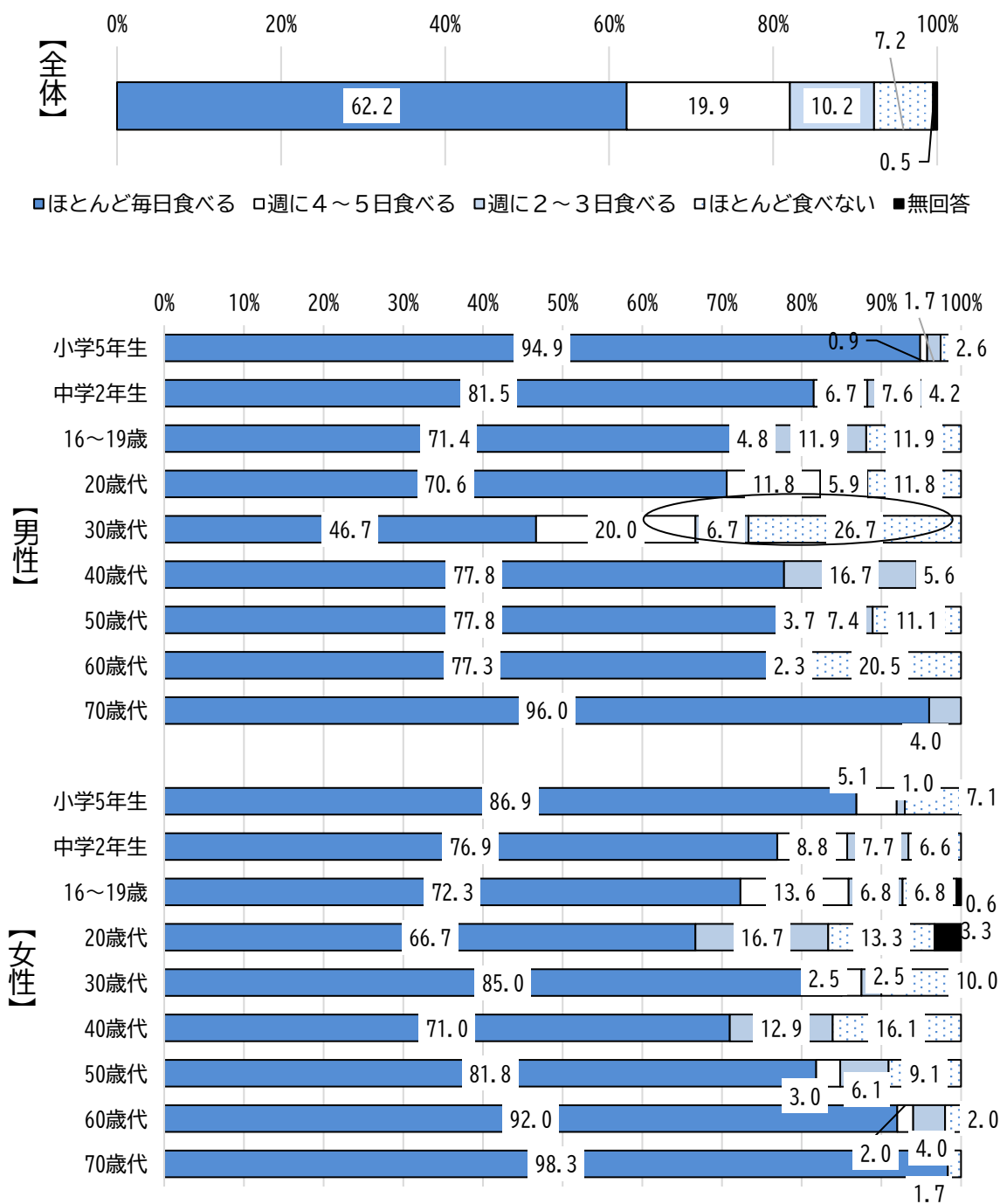
みんなで一緒に食卓を囲んで、共に食べることを「共食(きょうしょく)」と言います。子どもがいる家庭では、食事のマナー、栄養バランスを考えて食べる習慣や食べ物や食文化を大事にする気持ちなどを、子どもに伝える良い機会にもなります。一方、家庭での共食が難しい子どもたちには、子ども食堂などの共食の機会を提供する取り組みも増えており、食事の場としても期待されます。

\* (アスタリスク) がついた用語については、資料編に「用語説明」があります。

### (3) 朝食の摂取状況

朝食により体温を上げ脳にエネルギーを補給し、体は1日の活動準備を整えます。また朝食の欠食は肥満や生活習慣病につながることもあります。30歳代男性で朝食を欠食する者の割合が高く、33.4%（「週に2～3日食べる」「ほとんど食べない」）となっています。

図 4-4 あなたはふだん朝食を食べますか？



## 学校給食における地場産物活用(教育政策課)

学校給食に地場産物を使用することは、地域の自然や文化、産業等に関する理解を深めることなど地産地消の有効な手段です。小松島市の学校給食における地場産物・国産食材の活用率は、県の活用率と比べおおむね高い状況にあります。

表 4-3 令和 4 年度学校給食における地場産物・国産食材の使用状況調査  
(金額ベース)

		小松島市	徳島県
6 月	地場産物	73.3%	63.7%
	国産食材	93.2%	84.9%
11 月	地場産物	61.4%	64.5%
	国産食材	90.1%	87.8%

※徳島県食育推進計画(第4次)における目標値  
学校給食に地場産物を活用する割合 65%  
学校給食に国産食材を活用する割合 85%



～小松島市の学校給食より～  
小型米粉パン・ちりめんときのこの和風スパゲティ・ごぼうサラダ・牛乳  
～献立に使われている小松島産の食材～  
米粉・ちりめん・しいたけ・  
きゅうり・小松菜

## 〈小松島市の農業・水産・畜産物〉

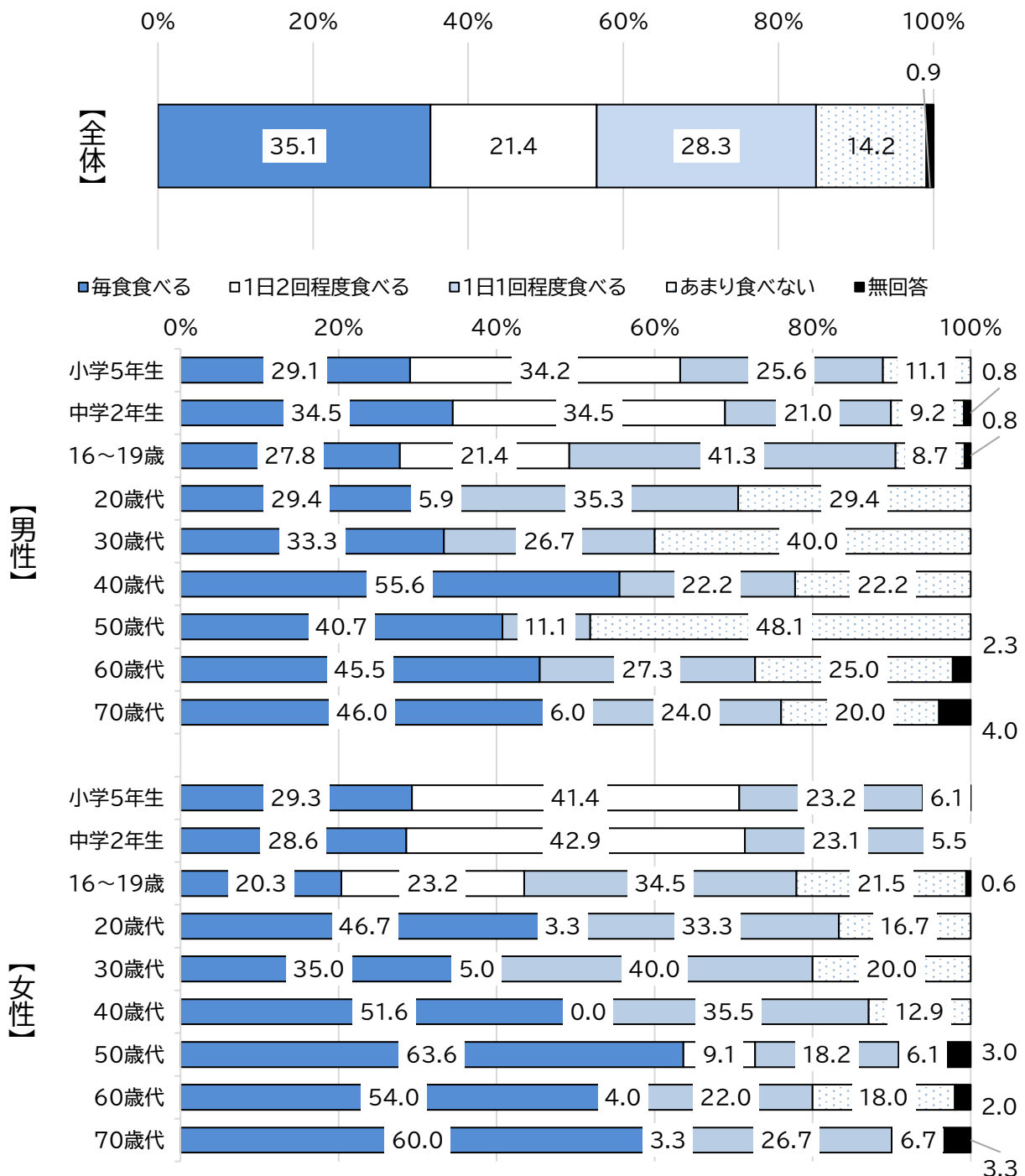
小松島市では、勝浦川、那賀川の両流域に広がる肥沃な土壌と恵まれた気象条件のもと、水稻を中心に、野菜ではいちごやきゅうり、果樹では温州みかん、しいたけの栽培や、畜産など多様な農産物が生産されています。市の東側に広がる紀伊水道の豊かな漁場では、いわし類(しらす)、いか類、たちうおなど多くの水産物が獲れています。

\* (アスタリスク) がついた用語については、資料編に「用語説明」があります。

#### (4) 副菜の摂取状況

循環器疾患やがんの予防などの生活習慣病予防に効果的に働くと考えられているカリウム、食物繊維、ビタミン類などの摂取は野菜の摂取量と比例するといわれています。副菜の摂取状況をみると「毎食食べる」と回答した者の割合が前回調査と比べ、小学5年生の男女、中学2年生の男子以外は各年代の男女とも増加していました。

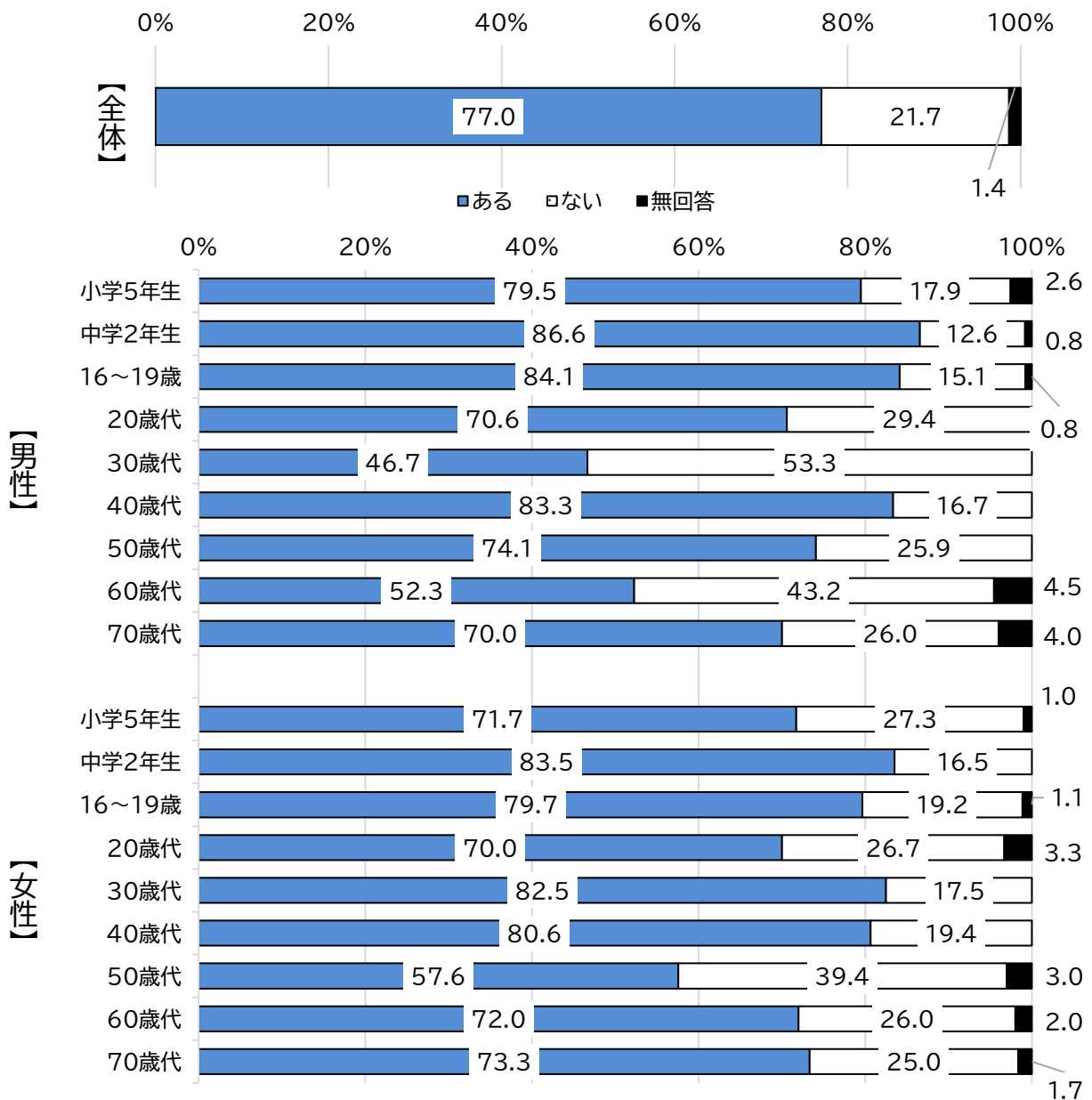
図4-5 あなたは野菜や海藻・きのこなどが主となるおかず(サラダ、おひたし、酢の物など)を食べていますか？



### (5) 間食や甘い飲み物の摂取頻度

全体の77%が、朝昼夕の3食以外に間食や飲み物を摂取をすることがあると答えています。30歳代の男性以外は50%を超えており、間食や甘い飲み物の摂取頻度が高い傾向にあります。

図 4-6 あなたは朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物(甘いジュースや乳酸菌飲料、スポーツ飲料も含む)を摂取していますか？



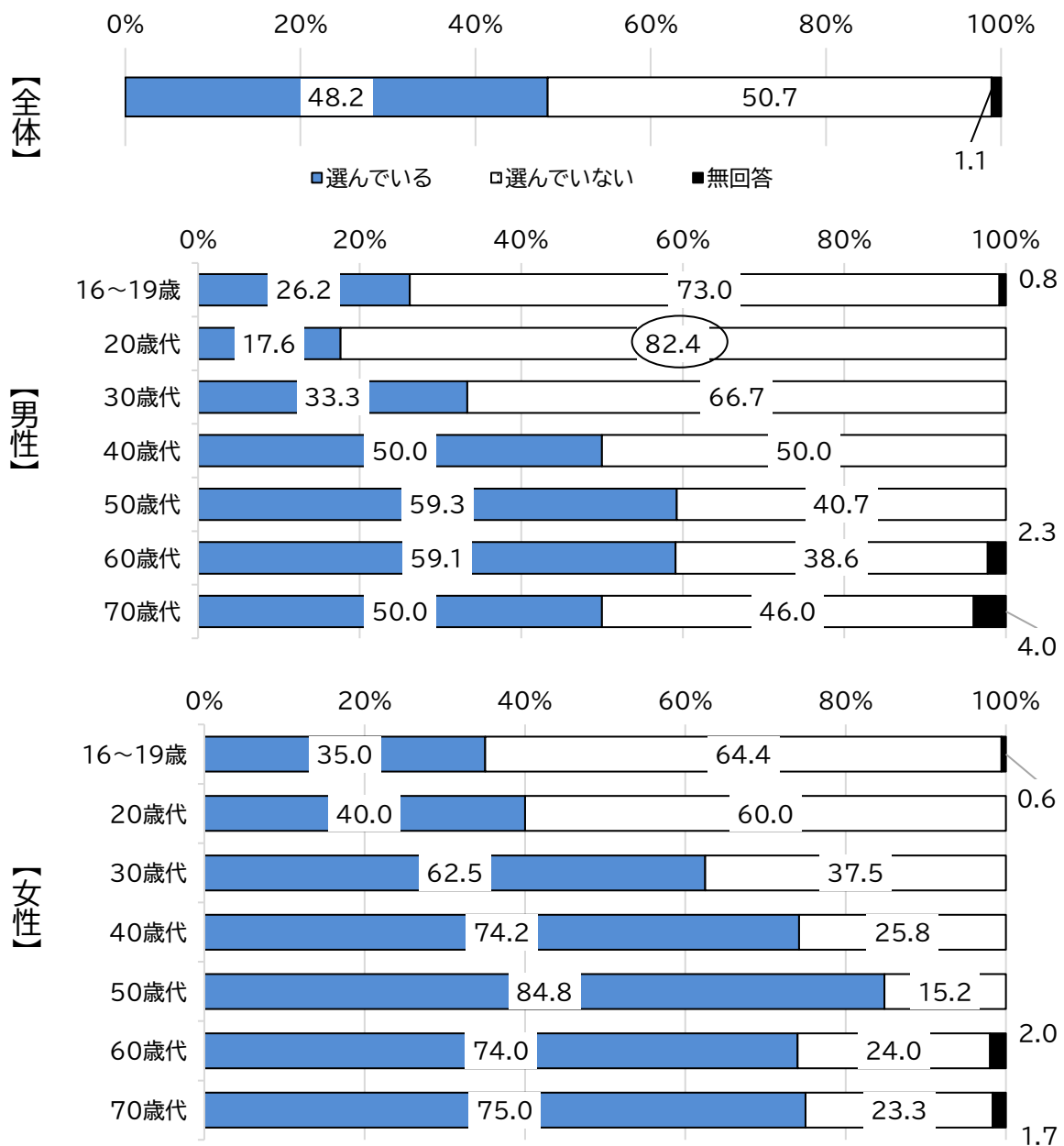
\* (アスタリスク) がついた用語については、資料編に「用語説明」があります。



## (6) 食品購入時の意識

米や野菜、肉、魚などの農林水産物の食品を選ぶときに、産地や生産者を意識することで、地産地消の拡大や、地域の生産者を応援することにもつながります。全体の48.2%が意識しており、男性より女性の割合が高い傾向にありました。20歳男性の82.4%が意識していない状況でした。

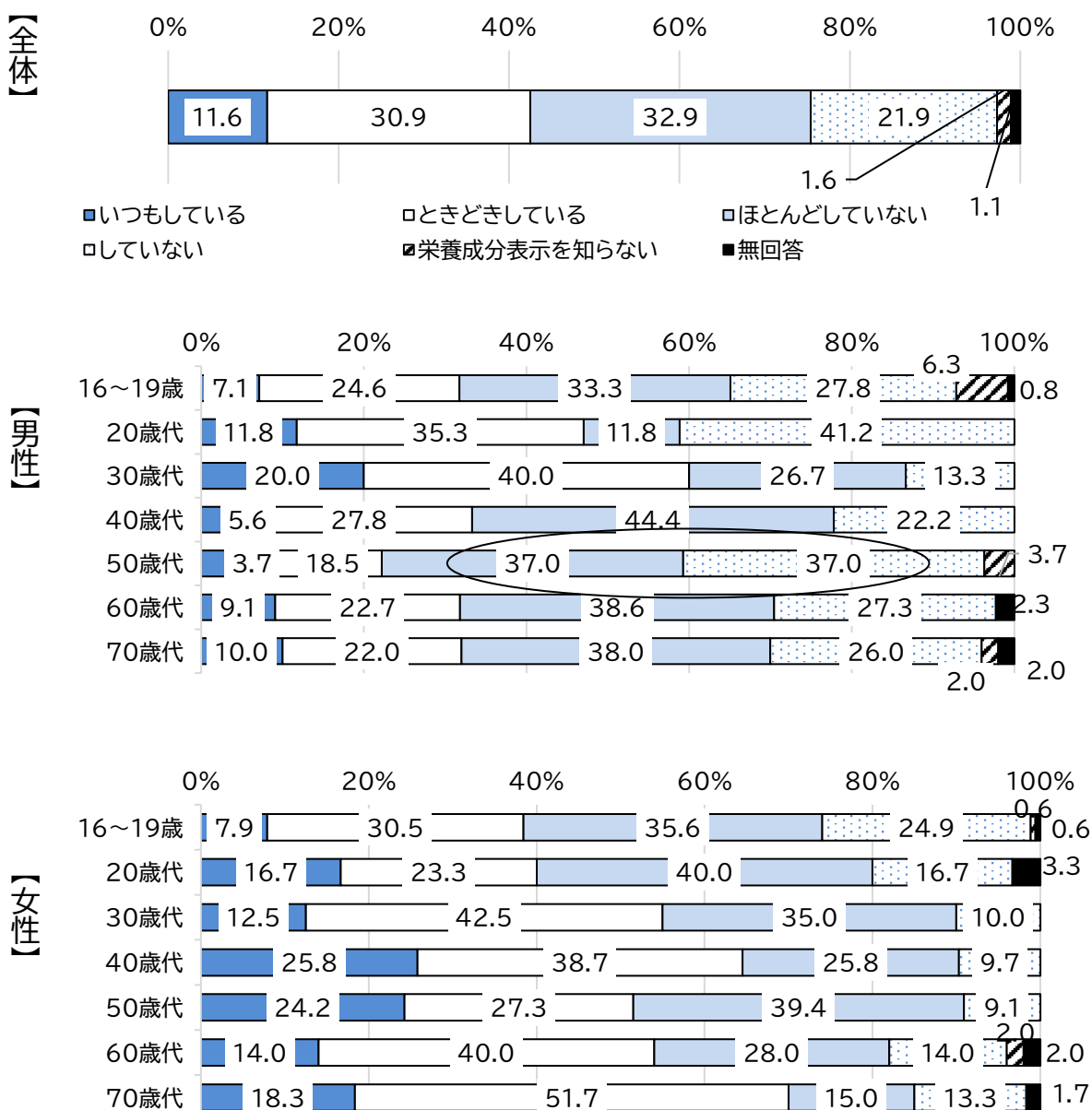
図4-7 あなたは米や野菜、肉、魚などの食品を購入するときに、産地や生産者を意識して選んでいますか？



## (7) 栄養成分表示の参考頻度

健全な食生活の実現にあたっては、食品の選び方等基本的な知識を持ち、その知識を踏まえて行動していくことが重要です。その行動を外食時や商品購入時の栄養成分表示の参考頻度でみています。全体の42.5%（「いつもしている」と「ときどきしている」の計）が栄養成分表示を参考にしていました。前回調査と比べ0.3%減少しています。また、「栄養成分表示を知らない」が1.6%で4%減少しています。50歳代男性は74%（「ほとんどしていない」と「していない」の計）が栄養成分表示を知っているが、参考にしていない状況でした。

図 4-8 あなたは外食時や、商品購入時に栄養成分表示(エネルギーなど栄養価の表示)を参考にしていますか？



\* (アスタリスク) がついた用語については、資料編に「用語説明」があります。

## (8)食品ロスについて

日本の食品ロスの約半分は家庭から出ています。「もったいない」という思いを持ち、行動することで食品ロスは減らすことができます。全体の35.4%が食べ残しを減らす工夫や、調理をする時に作りすぎないようにしていると回答しています。「全くしていない」が30歳男性で20.0%、40歳男性で22.2%という状況でした。

図 4-9 あなたは食べ残しを減らす工夫や、調理をする時に作りすぎないようにしていますか？

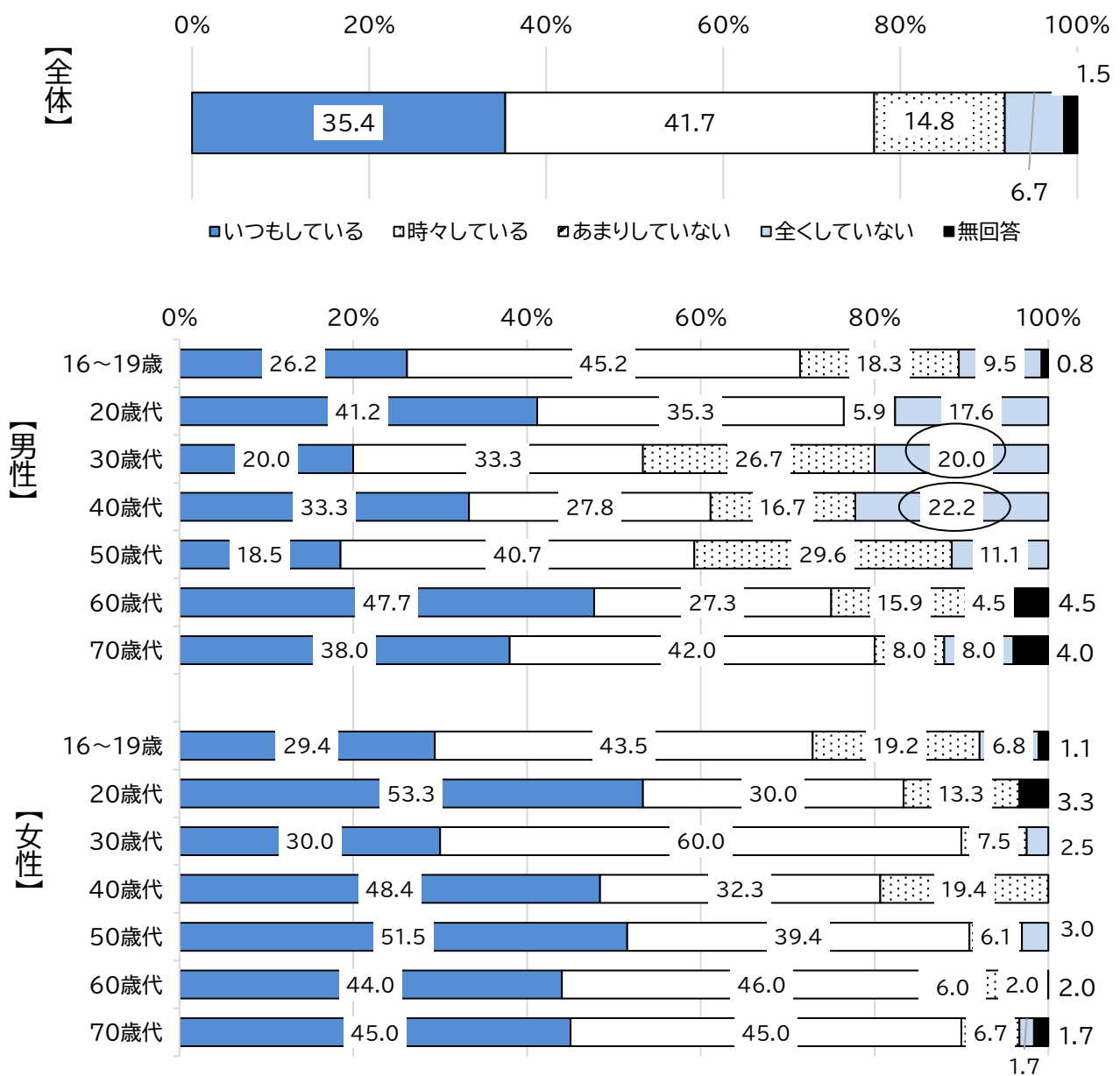
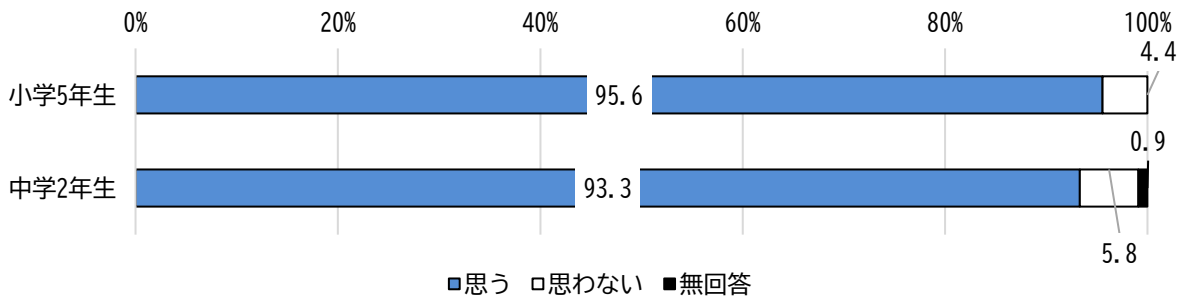


図 4-10 あなたは給食やご飯を残すことをもったいないと思いますか？



持続可能な食を支えるには、環境への配慮も食育の重要な要素の一つです。食の生産から消費等に至る食の循環が環境へ与える影響に配慮して、食品ロスの削減やごみの減量化を図ることも重要です。

#### 食品ロス削減の取組について(市民環境課)

##### 【フードポスの設置】

食品ロスをはじめ一般廃棄物排出量の削減を目的として、「フードポスト」を設置し、家庭で食べきれずに捨ててしまう食品や未使用の生活用品等の寄付を集めています。集められた食品や生活用品等は、小松島市社会福祉協議会やこまつしま生活自立支援センター、フードバンクとくしまなどを通じて、それらを必要としている人のもとへ届けられます。



##### 【小松島市オリジナルテイクボックスの配付】

食品ロス削減及びプラスチックごみ削減を目的とし、紙製の「小松島市オリジナルテイクボックス」を製作し、協力店舗で使用していただいています。また、封止めのシールは、市内中学校の生徒がデザインしています。

市から協力店舗に、おいしく食べきって食べ残しを減らしていただくための取組について紹介し、協力をお願いしています。

\* (アスタリスク) がついた用語については、資料編に「用語説明」があります。

## (9)日頃の食生活で、悩みや不安を感じることもあるか(自由記載)

日頃感じている食生活の悩みは、栄養バランス、調理・食べ方、食費についての3つの項目に分けられました。

栄養バランスについては、好みの食事に偏っており、野菜不足を感じる人が多くいました。調理、食べ方については、「一人暮らしや残業で忙しく自炊する時間がない」、「調理に自信がない」、「献立に悩む」、「食材の買い物に苦勞を感じる」などの意見がありました。食費についても、「食品の値上がり」「国産の食材を使いたいが、価格高騰で使えない」などの意見がありました。

## 4.小松島市の食をめぐる主な課題

### (1)肥満・痩身傾向児・者の割合が高い

前計画との評価において、肥満・傾向児・者の割合が増加している状況でした。令和4年の市の肥満・痩身傾向児・者の出現率は、県または国と比べ、高い状況です。

### (2)家族との朝食における共食の割合が低い

朝食を「ほとんど毎日家族と食べる」割合は31.4%で、国の調査の48.1%を下回る状況でした。特に16から19歳までの男女で共食の割合が低くなっています。

### (3)朝食の欠食割合が高い

朝食を欠食する割合が高いのは、男性は30歳代で26.7%、女性は40歳代で16.1%となっており、国の調査を上回っている状況でした。

### (4)間食や甘い飲み物を摂る頻度が高い

間食や甘い飲み物を3食以外に摂る者は、全体で77%でした。特に、中学2年生と16～19歳の男女ともに摂取頻度が高くなっています。

### (5)栄養成分表示を活用する者が少ない

外食時や、商品購入時に栄養成分表示を参考に「ほとんどしていない」と「していない」の計が、全体で54.8%でした。

### (6)食品ロス削減への取組

食べ残しや、調理をする時に作りすぎないようにすることを「全くしていない」は全体で14.8%でした。30～50歳代の男性では「全くしていない」「あまりしていない」の計が約40%と高い状況です。

## 5.食育推進の取り組み

### (1)乳幼児期(0歳～6歳)

乳幼児期は心身機能や食行動の発達が著しい時期であることから授乳、離乳の支援や発育・発達段階に応じて望ましい食習慣を定着させるとともに、豊かな食体験を積み重ねることができるよう食育を推進します。

#### 【取り組み内容】

市民の取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>●規則正しい食事で生活リズムをつくる。</li><li>●薄味を心がけ、いろいろな食べ物を味わう。</li><li>●よくかんで食べる習慣をつける。</li><li>●いただきます、ごちそうさまのあいさつの習慣をつける</li></ul>
---------	---

保育所(認定こども園)・幼稚園における取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●給食を通じた食育推進に努める。</li> <li>●「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する。</li> <li>●体験を通して食材への関心を高める。</li> <li>●給食での食物アレルギー対応を行う。</li> <li>●食育年間指導計画を作成し、保育と一体的に食育推進に努める。</li> <li>●食育月間(6月)と食育の日(毎月19日)に食育の推進を行う。</li> <li>●給食(食育)だよりを通して、食に関する情報提供・普及啓発を行う。</li> </ul>
地域における取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農業、漁業体験など地域や地場産物に触れる機会を提供する。</li> <li>●安心・安全な食を提供する。</li> <li>●食生活改善推進員、食育ボランティア等による食育活動を行う。</li> </ul>
行政における取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●母子保健事業等において乳幼児の成長に合わせた授乳・離乳の支援や、食事量と栄養バランスについて普及啓発を行う。</li> <li>●食生活改善推進員活動の支援を行う。</li> <li>●食育月間(6月)と食育の日(毎月19日)に食育の推進を行う。</li> </ul>

## (2) 学童期・思春期(7歳～19歳)

学童・思春期は体力、運動能力が向上する時期であるとともに、望ましい生活習慣や健康観を形成確立する時期で、特に思春期は生殖機能の発達もみられます。この時期には、肥満ややせ等将来の健康に影響を及ぼす課題もあるため、自分の体の成長を理解し自分の身体を大切にすることや、自分の食生活を振り返り評価・改善できるように食育を推進します。

### 【取り組み内容】

市民の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日3回の食事と規則正しい生活リズムをつける。</li> <li>●家族で食卓を囲む。</li> <li>●薄味を心がけ、いろいろな食べ物を味わう。</li> </ul>
学校における取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●給食を通じた食育推進に努める。</li> <li>●「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する。</li> <li>●体験を通して食材への関心を高める。</li> <li>●給食での食物アレルギー対策を行う。</li> <li>●食に関する指導全体計画を作成し、生活習慣病予防につながる食育を推進する。</li> <li>●野菜摂取量増加を目指した食育を推進する。</li> <li>●各種団体と連携し、学校給食で積極的に地場産物を取り入れる。</li> <li>●朝食の大切さを理解し、自ら進んで“バランスのよい”朝食を食べようとする意欲を育てる。</li> <li>●食育月間(6月)と食育の日(毎月19日)に食育の推進を行う。</li> <li>●食品ロスに関する意識を高める。</li> </ul>
地域における取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農業、漁業体験など地域や地場産物に触れる機会を提供する。</li> <li>●安心・安全な食を提供する。</li> <li>●学校での食育の取り組みに対し協力する。</li> <li>●食生活改善推進員、食育ボランティア等による食育活動を行う。</li> </ul>

行政における取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●規則正しい生活習慣の啓発活動を推進する。</li> <li>●小中学校給食に対する認証米の提供を継続する。</li> <li>●安心・安全な農業への理解と普及啓発をはかる。</li> <li>●健康状態に応じた栄養指導・相談の充実をはかる。</li> <li>●食生活改善推進員活動の支援を行う。</li> <li>●食育月間(6月)と食育の日(毎月19日)に食育の推進を行う。</li> <li>●栄養成分表示の活用についての普及啓発を行う。</li> <li>●食品ロス削減のための普及啓発をはかる。</li> </ul>
------------	---

### (3) 壮年期・中年期(20歳～64歳)

壮年期・中年期は働く、子どもを産み育てるなど、極めて活動的な時期です。身体的にも機能は充実している時期ですが、仕事、育児などで忙しく、食そのものに対する関心が低くなりがちな時期でもあります。中年期は生活習慣病の発症リスクが高まることから、健康寿命の延伸に向けて、食習慣や栄養バランスの改善に取り組んでいく食育を推進します。

#### 【取り組み内容】

市民の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健診結果から自分及び家族の健康状況を知り、生活習慣病予防のための食生活改善を行う。</li> <li>●仲間や家族と語りいながら食事をする。</li> </ul>
地域における取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農業、漁業体験など地域や地場産物に触れる機会を提供する。</li> <li>●安心・安全な食を提供する。</li> <li>●食生活改善推進員、食育ボランティア等による食育活動を行う。</li> </ul>
行政における取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●適正体重を維持するための食育の推進を行う。</li> <li>●野菜摂取量増加を目指した食育を推進する。</li> <li>●年代に応じた適正な食習慣や栄養に関する知識の啓発に努める。</li> <li>●生活習慣病予防のため、栄養と食生活に関する正しい知識の情報提供、相談を行う。</li> <li>●健診結果に基づいた食生活指導を行う。</li> <li>●食生活改善推進員活動の支援を行う。</li> <li>●食育月間(6月)と食育の日(毎月19日)に食育の推進を行う。</li> <li>●栄養成分表示の活用についての普及啓発を行う。</li> <li>●食品ロス削減のための普及啓発をはかる。</li> </ul>

### (4) 高齢期(65歳以上)

高齢期は、エネルギーやたんぱく質が不足する低栄養の状態に陥ると、体重や筋肉量が減少し生活活動度が低下するなど、健康の減退に留意すべき時期です。また、高齢者の孤食も課題となっています。高齢期は栄養バランス確保に加え、本人の経験や技術等も考慮した食育を推進します。

#### 【取り組み内容】

市民の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●栄養のバランスと減塩に心がけ、3食きちんと食べる。</li> <li>●仲間や家族と語りいながら食事をする。</li> <li>●健康診断を定期的に受診し、健康維持に努める。</li> <li>●かむ力や飲み込む力を維持する。</li> </ul>
---------	--

地域における取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域において、食に関する知恵や経験を次世代につなぐ。</li> <li>●安心・安全な食を提供する。</li> <li>●高齢者の社会参画につながる食育を推進する。</li> <li>●食を通じた交流をすすめる。</li> <li>●食生活改善推進員、食育ボランティア等による食育活動を行う。</li> </ul>
行政における取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一般介護予防事業において高齢者の特徴に合わせた食育をすすめる。</li> <li>●生活習慣病予防のため、栄養と食生活に関する正しい知識の情報提供、相談を行う。</li> <li>●健診結果に基づいた食生活指導を行う。</li> <li>●食生活改善推進員活動の支援を行う。</li> <li>●食育月間(6月)と食育の日(毎月19日)に食育の推進を行う。</li> <li>●栄養成分表示の活用についての普及啓発を行う。</li> <li>●食品ロス削減のための普及啓発をはかる。</li> </ul>



# 【食育推進の取組一覧】

## 基本目標：みんなでつくる 心とからだに おいしいごはん

基本方針	行動目標	食育推進の取り組み	市の関連事業																																								
健康寿命の延伸につながる食育	<p>○早寝・早起き・朝ごはんの習慣でリズムを整えよう</p> <p>○栄養のバランスと減塩に心がけ、3食きちんと食べよう</p> <p>○適正体重を知ろう</p>	<p>●「早寝・早起き・朝ごはん」の推進</p> <p>●1日3回の食事で規則正しい生活リズムをつける</p> <p>●朝食の大切さを理解し、自ら進んで朝食を食べようとする意欲を育てる</p> <p>●高齢者の特徴に合わせた食育をすすめる</p> <p>●野菜摂取量増加を目指した食育の推進</p> <p>●乳幼児の成長に合わせた授乳・離乳の支援や、「食事量」と栄養バランスについて普及啓発を行う</p> <p>●外食や、商品購入時に栄養成分表示を参考にする</p> <p>●薄味を心がけ、いろいろな食べ物を味わう</p> <p>●年代に応じた適正な食習慣や栄養に関する知識の啓発に努める</p> <p>●適正体重を維持するための食育の推進を行う</p> <p>●健康診断を定期的を受診し、健康維持に努める</p> <p>●ゆっくりよくかんで食べる習慣をつける</p> <p>●噛む力や飲み込む力を維持する</p> <p>●健診結果に基づいた食生活指導を行う</p> <p>●生活習慣病予防のため、栄養と食生活に関する正しい知識の情報提供、相談を行う</p>	<table border="1"> <tr><td>母子健康手帳発行保健指導</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>マタニティくらぶ</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>産前産後ママサポート事業</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>乳児家庭全戸訪問事業</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>乳幼児健診</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>育児相談</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>離乳食講習会</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>ポンポコくらぶ</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>健康教育</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>健康相談</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>家庭訪問</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>歯周病検診</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>骨粗鬆症健診</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>生活保護受給者健診</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>食生活改善推進員育成</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>特定健診・特定保健指導</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>健康づくりのつどい</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>糖尿病と闘うプロジェクト</td><td>保健センター</td></tr> <tr><td>食に関する指導全体計画の作成</td><td>教育政策課</td></tr> <tr><td>介護予防健康教室</td><td>介護福祉課</td></tr> </table>	母子健康手帳発行保健指導	保健センター	マタニティくらぶ	保健センター	産前産後ママサポート事業	保健センター	乳児家庭全戸訪問事業	保健センター	乳幼児健診	保健センター	育児相談	保健センター	離乳食講習会	保健センター	ポンポコくらぶ	保健センター	健康教育	保健センター	健康相談	保健センター	家庭訪問	保健センター	歯周病検診	保健センター	骨粗鬆症健診	保健センター	生活保護受給者健診	保健センター	食生活改善推進員育成	保健センター	特定健診・特定保健指導	保健センター	健康づくりのつどい	保健センター	糖尿病と闘うプロジェクト	保健センター	食に関する指導全体計画の作成	教育政策課	介護予防健康教室	介護福祉課
	母子健康手帳発行保健指導	保健センター																																									
マタニティくらぶ	保健センター																																										
産前産後ママサポート事業	保健センター																																										
乳児家庭全戸訪問事業	保健センター																																										
乳幼児健診	保健センター																																										
育児相談	保健センター																																										
離乳食講習会	保健センター																																										
ポンポコくらぶ	保健センター																																										
健康教育	保健センター																																										
健康相談	保健センター																																										
家庭訪問	保健センター																																										
歯周病検診	保健センター																																										
骨粗鬆症健診	保健センター																																										
生活保護受給者健診	保健センター																																										
食生活改善推進員育成	保健センター																																										
特定健診・特定保健指導	保健センター																																										
健康づくりのつどい	保健センター																																										
糖尿病と闘うプロジェクト	保健センター																																										
食に関する指導全体計画の作成	教育政策課																																										
介護予防健康教室	介護福祉課																																										
多様な暮らしに対応した食育	<p>○食に関心を持ち、食を楽しもう</p> <p>○地域の方で、ひとりひとりに応じた食生活を支援しよう</p> <p>○食文化を大切にしよう</p>	<p>●家族や仲間と食卓を囲む</p> <p>●料理と一緒に作ったり、野菜を育てる</p> <p>●給食での食物アレルギー対策を行う</p> <p>●体験を通して食材への関心を高める</p> <p>●学校での食育の取り組みに対し協力する</p> <p>●高齢者の社会参画につながる食育の推進する</p> <p>●食を通じた交流をすすめる</p> <p>●食生活改善推進員、食育ボランティア等による食育活動を行う</p> <p>●給食を通じた食育推進に努める</p> <p>●食育月間(6月)と食育の日(毎月19日)に食育推進を行う</p> <p>●地域の郷土料理や行事食など食文化を引き継ぐ</p> <p>●地域において、食に関する知恵や経験を次世代につなぐ</p>	<table border="1"> <tr><td>しよくじだより・食育だより発行</td><td>児童福祉課</td></tr> <tr><td>保育所(認定こども園)での野菜の栽培、収穫体験</td><td>児童福祉課</td></tr> <tr><td>保育所(認定こども園)でのクッキング</td><td>児童福祉課</td></tr> <tr><td>保育所(認定こども園)での食を通じた交流</td><td>児童福祉課</td></tr> <tr><td>学校食育推進委員会の開催</td><td>教育政策課</td></tr> <tr><td>食育通信の発行</td><td>教育政策課</td></tr> <tr><td>学校食育推進パワーアップ作戦</td><td>教育政策課</td></tr> <tr><td>学校食育推進アンケートの実施</td><td>教育政策課</td></tr> <tr><td>65歳からの男性の栄養教室</td><td>介護福祉課</td></tr> <tr><td>高齢者サロン開催支援</td><td>介護福祉課</td></tr> <tr><td>こまつしま市社協介護予防サポーター育成</td><td>介護福祉課</td></tr> <tr><td>包括支援センター職員派遣による出張講座</td><td>介護福祉課</td></tr> <tr><td>介護予防・生活支援サービス事業</td><td>介護福祉課</td></tr> <tr><td>介護予防ケアマネジメント</td><td>介護福祉課</td></tr> <tr><td>地場産物のブランド化</td><td>農林水産課</td></tr> <tr><td>担い手の人材育成・支援</td><td>農林水産課</td></tr> </table>	しよくじだより・食育だより発行	児童福祉課	保育所(認定こども園)での野菜の栽培、収穫体験	児童福祉課	保育所(認定こども園)でのクッキング	児童福祉課	保育所(認定こども園)での食を通じた交流	児童福祉課	学校食育推進委員会の開催	教育政策課	食育通信の発行	教育政策課	学校食育推進パワーアップ作戦	教育政策課	学校食育推進アンケートの実施	教育政策課	65歳からの男性の栄養教室	介護福祉課	高齢者サロン開催支援	介護福祉課	こまつしま市社協介護予防サポーター育成	介護福祉課	包括支援センター職員派遣による出張講座	介護福祉課	介護予防・生活支援サービス事業	介護福祉課	介護予防ケアマネジメント	介護福祉課	地場産物のブランド化	農林水産課	担い手の人材育成・支援	農林水産課								
しよくじだより・食育だより発行	児童福祉課																																										
保育所(認定こども園)での野菜の栽培、収穫体験	児童福祉課																																										
保育所(認定こども園)でのクッキング	児童福祉課																																										
保育所(認定こども園)での食を通じた交流	児童福祉課																																										
学校食育推進委員会の開催	教育政策課																																										
食育通信の発行	教育政策課																																										
学校食育推進パワーアップ作戦	教育政策課																																										
学校食育推進アンケートの実施	教育政策課																																										
65歳からの男性の栄養教室	介護福祉課																																										
高齢者サロン開催支援	介護福祉課																																										
こまつしま市社協介護予防サポーター育成	介護福祉課																																										
包括支援センター職員派遣による出張講座	介護福祉課																																										
介護予防・生活支援サービス事業	介護福祉課																																										
介護予防ケアマネジメント	介護福祉課																																										
地場産物のブランド化	農林水産課																																										
担い手の人材育成・支援	農林水産課																																										
持続可能な食を支える食育	<p>○食品ロスを減らす工夫をしよう</p> <p>○地産地消を推進しよう</p> <p>○環境に配慮した農林水産物・食品を選ぼう</p>	<p>●家庭からの食品ロス削減を推進する</p> <p>●4R活動の推進 ※1</p> <p>●食品ロスに関する意識を高める</p> <p>●キエーロの普及啓発を行う ※2</p> <p>●各種団体と連携し、学校給食で積極的に地場産物を取り入れる</p> <p>●農業、漁業体験など地域や地場産物に触れる機会を提供する</p> <p>●食品を購入する時に、産地や生産者を意識して選ぶ</p> <p>●有機農業をはじめとした持続可能な農業生産の推進</p> <p>●安心・安全な農業への理解と普及啓発をはかる</p> <p>●安心・安全な食を提供する</p>	<table border="1"> <tr><td>ごみゼロ政策推進事業</td><td>市民環境課</td></tr> <tr><td>ごみ減量・再資源化推進事業</td><td>市民環境課 環境衛生センター</td></tr> <tr><td>フードロス削減協力店の募集</td><td>市民環境課</td></tr> <tr><td>フードポストの設置</td><td>市民環境課</td></tr> <tr><td>小松島市生物多様性農業推進協議会での食育並びに地産地消の推進事業</td><td>農林水産課</td></tr> <tr><td>学校給食での地場産物・国産食材の活用</td><td>教育政策課</td></tr> </table> <p>※1:4R(リデュース、リデュース、リユース、リサイクル)発生回避、発生抑制、再使用、再生利用のこと</p> <p>※2:生ごみ分解型処理容器</p>	ごみゼロ政策推進事業	市民環境課	ごみ減量・再資源化推進事業	市民環境課 環境衛生センター	フードロス削減協力店の募集	市民環境課	フードポストの設置	市民環境課	小松島市生物多様性農業推進協議会での食育並びに地産地消の推進事業	農林水産課	学校給食での地場産物・国産食材の活用	教育政策課																												
ごみゼロ政策推進事業	市民環境課																																										
ごみ減量・再資源化推進事業	市民環境課 環境衛生センター																																										
フードロス削減協力店の募集	市民環境課																																										
フードポストの設置	市民環境課																																										
小松島市生物多様性農業推進協議会での食育並びに地産地消の推進事業	農林水産課																																										
学校給食での地場産物・国産食材の活用	教育政策課																																										